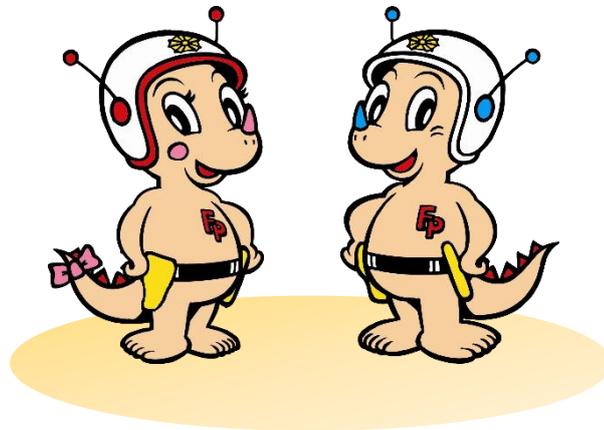


# 福井県の治安情勢 [10月末現在]

(令和6年10月末数値は暫定のものを含む。)



令和6年11月3日「警察犬審査会」



— 福井県警察 —

# 1 刑法犯

## (1) 刑法犯の認知・検挙状況

認知件数は2,400件で、前年同期に比べて10件(0.4%)減少

検挙件数は1,757件で、前年同期に比べて424件(31.8%)増加

検挙率は73.2%で、前年同期に比べて17.9ポイント上昇

		R3	R4	R5	R6.10末
福井	認知件数(件)	2,714	2,664	2,840	2,400 (-10)
	検挙件数(件)	2,119	1,799	1,631	1,757 (+424)
	検挙人員(人)	1,100	1,051	1,183	1,044 (+86)
	検挙率(%)	78.1	67.5	57.4	73.2 (+17.9)
全国	認知件数(件)	568,104	601,331	703,351	614,804 (+30,308)
	検挙件数(件)	264,485	250,350	269,550	229,477 (+13,529)
	検挙人員(人)	175,041	169,409	183,269	154,543 (+7,753)
	検挙率(%)	46.6	41.6	38.3	37.3 (+0.4)

※1 表中の( )内の数字は、前年同期比(以下同じ。)

※2 検挙率とは、当該年の認知件数に対する検挙件数(当該年の前年以前の認知事件の検挙を含む。)の割合

## (2) 重要犯罪の認知・検挙件数

認知件数は63件で、前年同期に比べて17件(37.0%)増加

検挙件数は63件で、前年同期に比べて27件(75.0%)増加

### 【認知件数】

(単位:件)

	R3	R4	R5	R6.10末
殺人	3	5	6	4(-1)
強盗	1	1	2	4(+2)
放火	2	2	3	2(-1)
不同意性交等	13	7	10	31(+22)
略取・誘拐	3	2	0	4(+4)
不同意わいせつ	22	11	29	18(-9)
合計	44	28	50	63(+17)

### 【検挙件数】

(単位:件)

	R3	R4	R5	R6.10末
殺人	4	5	6	4(±0)
強盗	1	1	1	5(+4)
放火	2	2	3	2(±0)
不同意性交等	13	7	10	31(+23)
略取・誘拐	3	2	0	4(+4)
不同意わいせつ	22	12	28	17(-4)
合計	45	29	48	63(+27)

### (3) 防止重点8罪種の認知件数

認知件数は1,318件で、前年同期に比べて53件(3.9%)減少

(単位：件)

	R3	R4	R5	R6.10末
車上ねらい	123	160	81	136(+72)
自転車盗	293	310	542	330(-165)
万引き	443	562	513	534(+138)
置引き	114	142	143	83(-43)
器物損壊	220	156	206	130(-44)
空き巣	53	43	58	33(-14)
忍込み	252	20	20	37(+18)
住居侵入	51	61	55	35(-15)
合計	1,549	1,454	1,618	1,318(-53)

### (4) 主な施策

- 事業所の従業員やその家族に犯罪等に関する情報を発信する取組である「福井防犯力向上チャレンジ事業所」の募集活動の推進
- 万引き被害防止に向けて量販店と連携した対策会議の開催や、「仕掛学」に基づく「フロアシート」の活用による万引き防止対策
- 安全安心まちづくり推進旬間(10月11日～20日)において、県内各地で積極的に防犯パトロールを展開するなど、福井県防犯協会等の関係団体と連携した防犯活動を推進
- 警察署わんわんパトロール隊による子どもの見守りなどの自主防犯活動を促進するとともに、その活動をSNSで発信するなど、広報啓発活動を推進
- 高校生が制作した自転車盗難防止等に向けたポスターをバスや各事業所へ掲示するなど、高校や事業所と連携した広報の実施



防犯カメラのイラストが記載された  
「フロアシート」



高校や事業所と連携した  
防犯ポスターによる広報

## 2 子どもを犯罪から守る対策

### (1) 子どもに対する声掛け事案等

#### ア 相談等件数

相談等件数は129件で、前年同期に比べ14件(9.8%)減少 (単位:件)

	R3	R4	R5	R6.10末
小学生以下	100	55	63	56(+6)
中学生	55	41	45	32(-6)
高校生	60	56	53	40(-10)
その他	3	1	5	1(-4)
合計	218	153	166	129(-14)

※ 声掛け事案等とは、性犯罪等の前兆とみられる声掛け、つきまとい等をいう。

#### イ 先制・予防的活動

検挙、指導・警告件数は80件で、前年同期に比べて1件(1.2%)減少

(単位:件)

	R3	R4	R5	R6.10末
検挙	22	16	33	34(+13)
指導・警告	83	69	68	46(-14)
合計	105	85	101	80(-1)

#### ウ 主な施策

- スポーツ観戦に訪れた家族などに対して見守り活動への協力を呼びかけるとともに、防犯ボランティア等と連携して、通学路等における警戒・パトロールを推進
- 防犯アプリ「ふくいポリス」による不審者情報等のタイムリーな発信
- 子どもの危険回避能力向上のため、小学校等での防犯教室、不審者遭遇等の想定に基づいた郵便局での駆け込み訓練等の実施
- 声掛け事案等の行為者を早期に特定し、検挙、指導・警告等の先制・予防的活動の推進



福井ユナイテッドFC試合会場での見守り活動への協力呼びかけ



不審者遭遇の想定に基づく郵便局での駆け込み訓練

## (2) 児童虐待事案の認知対応状況

### ア 認知対応件数等

認知対応件数は381件で、前年同期に比べて72件（15.9%）減少

児童通告人員は383人で、前年同期に比べて3人（0.8%）減少

検挙件数は22件で、前年同期に比べて4件（22.2%）増加

		R3	R4	R5	R6.10末
認知対応件数（件）		547	521	528	381(-72)
児童通告	人員（人）	608	539	449	383(-3)
	身体的	60	59	59	34(-16)
	性的	4	0	2	1(-1)
	初外	26	16	31	19(-11)
	心理的	518	464	357	329(+25)
	うち面前DV	346	333	260	246(+29)
検挙件数（件）		33	17	21	22(+4)

### イ 主な施策

- 児童相談所との24時間体制による情報共有と確実な児童通告の実施
- 児童虐待事案の対応能力向上や連携強化を図るため、児童相談所との連絡会及び合同訓練の実施
- 「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」期間中における県や児童相談所等の関係機関との街頭啓発活動
- 県と協働で児童虐待防止啓発用の下敷き（母子手帳サイズ）を作製し、3歳児健診会場で保護者に配布
- ラジオ広報番組「ふくいチャレンジ通信」における児童虐待防止に向けた広報啓発



児童相談所との合同訓練



3歳児健診における保護者への啓発

### 3 非行少年を生まない社会づくり

#### (1) 非行少年の推移

検挙・補導した非行少年は200人で、前年同期に比べて23人(13.0%)増加

(単位：人)

	R3	R4	R5	R6.10末
犯罪少年	74	82	168	173(+33)
触法少年	24	19	40	27(-9)
く犯少年	0	0	1	0(-1)
非行少年総数	98	101	209	200(+23)

#### (2) 主な施策

- 防犯アプリ「ふくいポリス」や県のメールマガジンを活用して、薬物乱用防止や犯罪実行者募集情報(いわゆる「闇バイト」)の危険性についての広報啓発を実施
- すべての児童、生徒に内容が行き渡るよう、学校と連携した小・中・高校生に対する非行防止教室の開催
- 県内中高校生をターゲット層としたYouTube及びInstagramでのターゲティング広告を活用し、自画撮り被害や闇バイト等の相談窓口として福井少年サポートセンターを紹介する動画を配信



非行防止・被害防止に向けたターゲティング広告



犯罪実行者募集情報の注意喚起チラシ

### 4 女性を犯罪から守る対策

#### (1) 女性が被害者となる犯罪の認知・検挙件数

認知件数は150件で、前年同期に比べて12件(7.4%)減少

検挙件数は143件で、前年同期に比べて6件(4.0%)減少

(単位：件)

	R3		R4		R5		R6.10末	
	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙	認知	検挙
不同意性交等	13	13	7	7	10	10	13(+4)	13(+5)
不同意わいせつ	22	22	11	12	29	28	12(-15)	11(-10)
略取誘拐・人身売買	2	2	1	1	0	0	3(+3)	3(+3)
暴行	117	118	117	116	103	104	88(-1)	85(±0)
傷害	34	37	24	24	40	40	34(-3)	31(-4)
合計	188	192	160	160	182	182	150(-12)	143(-6)

(2) ストーカー事案の相談等・検挙状況

相談等件数は82件で、前年同期に比べて4件(5.1%)増加

検挙件数は22件で、前年同期に比べて7件(24.1%)減少 (単位:件)

	R3	R4	R5	R6.10末
相談等	130	122	90	82(+4)
検挙	37	20	31	22(-7)
禁止命令・警告	64	42	37	43(+14)

(3) DV事案の相談等・検挙状況

相談等件数は196件で、前年同期に比べて25件(14.6%)増加

検挙件数は78件で、前年同期に比べて13件(14.3%)減少 (単位:件)

	R3	R4	R5	R6.10末
相談等	236	190	203	196(+25)
検挙	99	80	112	78(-13)
保護命令	9	3	6	8(+3)
警告	109	85	88	81(+3)

(4) 主な施策

- ストーカー・DV事案に係る被害者の迅速な安全確保と行為者に対する指導・警告、検挙措置の徹底
- 盗撮や痴漢等の被害防止に向け、駅や鉄道利用者に対する広報啓発活動の実施と防犯アプリ「ふくいポリス」の登録促進
- 「レディース・ガードリーダー」と連携し、企業で働く女性社員の防犯力向上に向けた防犯講習の実施
- 精神科医やカウンセラーと連携し、ストーカー行為者に対して、治療に関する助言を行うなど、行為者の更生を支援 (R6.10末:15件実施)



JR福井駅での盗撮・痴漢被害防止広報啓発



女性の防犯力向上に向けた防犯講習

## 5 特殊詐欺対策

### (1) 特殊詐欺の認知件数及び被害額（※ 被害額の千円未満は四捨五入）

- ・ 特殊詐欺の認知件数は20件で、前年同期に比べて6件（約23.1%）減少
- ・ 被害金額は約1億3,106万5千円で、前年同期に比べて約7,201万6千円（約122.0%）増加

#### 【被害の特徴】

- ① 被害者は、65歳以上の高齢者の割合が多い（20件中14件、70.0%）
- ② 手口別では、オレオレ詐欺が最も多く（20件中6件、30.0%）、次いでキャッシュカード詐欺盗、架空料金請求詐欺が多い（20件中いずれも5件、25.0%）
- ③ 交付形態別では、「振込型」7件、「現金手交型」3件、「現金送付型」2件、「電子マネー型」1件、「キャッシュカード手交型」2件、「キャッシュカード窃取型」5件

	R3		R4		R5		R6.10末	
	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)	認知 (件)	被害額 (千円)
オレオレ	0	0	3	7,000	7	19,080	6(-1)	19,366(+286)
預貯金	5	6,076	8	5,315	5	14,892	2(-3)	1,993(-12,899)
架空料金請求	6	59,398	10	12,558	14	24,284	5(-7)	103,863(+80,376)
還付金	12	8,999	3	2,291	2	995	2(+1)	1,914(+1,415)
キャッシュカード詐欺盗	4	3,420	2	2,500	1	1,091	5(+4)	3,929(+2,838)
合計	27	77,893	26	29,664	29	60,342	20(-6)	131,065(+72,016)

※ 近年県内で発生している手口のみ記載

※ 預貯金詐欺とは、親族や警察官、銀行協会職員等を装い、口座が犯罪に利用されているなどと騙って、交換手続き名目でキャッシュカード、クレジットカード、預貯金通帳等をだまし取るもの。

※ キャッシュカード詐欺盗とは、オレオレ詐欺等の手口で被害者に接触し、被害者の隙を見てキャッシュカード等を窃取する窃盗をいう。

### (2) 検挙状況（助長犯罪※を含む。）

検挙人員は31人で、前年同期に比べて5人（13.9%）減少

	R3	R4	R5	R6.10末
検挙件数（件）	40	57	64	43(-12)
検挙人員（人）	31	33	43	31(-5)

※ 助長犯罪とは、売却目的で携帯電話や預貯金口座を不正に取得するなど、特殊詐欺を助長する犯罪をいう。

### (3) 主な施策

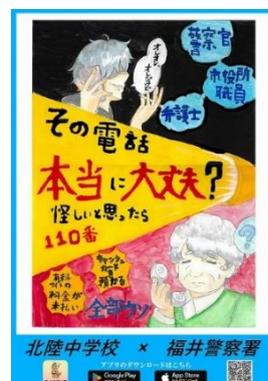
プロジェクトチームによる被害防止と検挙を両輪とした対策を推進

#### ア 被害防止対策

- 国際電話休止サービスの申込み手続きの支援に向けて病院における臨時窓口の開設等、固定電話による被害を防止するためのハード対策の促進
- 高校生が制作した啓発動画を映画館で上映するなど、学生、企業等と連携した広報啓発を実施
- 中高生が作成した作品をポスターやチラシにして、駅構内での掲示や鉄道利用者への配布を行うなど、学生や鉄道会社と連携した広報啓発を実施
- 現役世代を含めた幅広い世代の被害を防止するため、「福井防犯力向上チャレンジ事業所」を募集し、情報提供・広報啓発を実施
- 予兆電話認知時等のタイムリーな注意喚起や、「福井防犯力向上チャレンジ事業所」に対する特殊詐欺防止のためのメール配信、防犯アプリ「ふくいポリス」等による情報発信
- 電子マネー詐欺被害の防止に向けた、コンビニエンスストアに対する「ダミーカード」設置の働きかけと「チェックシート」の配布
- 特殊詐欺被害防止コールセンターを活用した啓発や、予兆電話発生地域に対する集中架電による注意喚起



固定電話対策窓口を病院ロビーに臨時開設



中学生が作成した特殊詐欺防止啓発ポスター

#### イ 検挙対策

- 県内に流入する受取役被疑者の徹底検挙
- 全国の特種詐欺連合捜査班との連携による犯行グループの壊滅に向けた取締り
- 携帯電話や預貯金口座の不正取得するなど、特殊詐欺を助長する犯罪の取締りと犯行ツールの無力化対策の推進

## 6 SNS型投資・ロマンス詐欺対策

### (1) SNS型投資・ロマンス詐欺の認知・相談件数及び認知・相談被害額（被害額の千円未満は四捨五入）

SNS型投資・ロマンス詐欺とは、SNS等を通じて対面することなく、交信を重ねるなどして信用させ、金銭をだまし取るもので、認知・相談件数は161件、認知・相談被害額は約11億6,075万円8千円

#### 【被害の特徴】

- ① 被害者は、50歳代が最も多いが、特殊詐欺に比べ幅広い世代が被害に遭っている
- ② 被害のきっかけは、「SNS」98件、「ウェブサイト」30件、「マッチングアプリ」26件、その他7件
- ③ 交付形態別では、「振込」125件、「暗号資産」28件、「現金手交」2件、その他6件

	R5		R6.10末	
	件数(件)※	被害額(千円)※	件数(件)※	被害額(千円)※
投資詐欺	131	1,111,357	108(+6)	745,415 (+47,829)
ロマンス詐欺	15	130,933	53(+43)	415,343 (+302,760)
合計	146	1,242,290	161(+49)	1,160,758 (+350,589)

※ 件数は認知・相談件数。被害額は認知・相談被害額。

### (2) 検挙状況

	R5	R6.10末
検挙件数(件)	0	2(+2)
検挙人員(人)	0	2(+2)

### (3) 主な施策

プロジェクトチームを中心に総合的な被害防止対策及び検挙対策を推進

#### ア 被害防止対策

- 県内在住で被害に遭う割合が高い40歳代～60歳代を対象として、ウェブサイトやSNSにおいて、被害防止に向けた啓発動画等を配信するターゲティング広告の実施
- 防犯アプリ「ふくいポリス」の活用や、「福井防犯力向上チャレンジ事業所」の募集による現役世代を含めた幅広い世代に対する広報啓発
- 証券会社主催の投資家を招いたイベント会場において、犯行手口と被害防止対策に関して講演するなど、投資に興味がある方への広報啓発を実施

#### イ 検挙対策

- 被害実態や犯行手口の一元的な集約、詳細な把握・分析による実態解明の推進
- 暴力団や匿名・流動型犯罪グループなど犯罪組織の関与を視野に入れた取締り
- SNS等のアカウントや暗号資産の口座など犯行ツールに関する捜査及び措置

## ウ 活動状況



ウェブサイトやSNSへ広報啓発動画等を配信するターゲティング広告の実施



証券会社と連携した被害防止のための広報啓発

## 7 暴力団等組織犯罪対策

### (1) 暴力団対策

#### ア 検挙状況

検挙人員は39人で、前年同期に比べて9人（18.8%）減少（単位：人）

	R3	R4	R5	R6.10末
刑法犯	31	26	38	20(-14)
特別法犯	19	27	16	19(+5)
合計	50	53	54	39(-9)

#### イ 山口組分裂に伴う諸対策

- 「六代目山口組・神戸山口組対立抗争集中取締本部」を継続し、暴力団犯罪の取締りと暴力団関係箇所の警戒活動を徹底（H29.4～）

#### ウ 暴力団排除活動の取組

- 県内の事業活動等における暴力団等からの不当な要求行為等を防止するための支援の実施など、暴力団等の資金源を封圧するための諸対策を推進
- 県暴力追放センターをはじめとする関係機関との連携を一層強化し、より効果的な暴力団排除活動を戦略的に推進



不当要求防止責任者講習



暴力追放福井県民大会

## (2) 薬物犯罪対策

### ア 検挙状況

検挙人員は75人で、前年同期に比べて7人(10.3%)増加 (単位:人)

	R3	R4	R5	R6.10末
覚醒剤	29	43	50	38(-4)
大麻	29	27	28	32(+10)
その他	11	7	5	5(+1)
合計	69	77	83	75(+7)

### イ 取締り

大麻取締法違反(所持)事件(R6.10)

覚醒剤取締法違反(所持)事件(R6.10)



押収した乾燥大麻



押収した覚醒剤結晶

### ウ 主な施策

若年層による薬物犯罪の防止に向け、サイバーパトロールによる違法・有害情報の排除、小・中・高校や大学生、企業に対する薬物乱用防止講座、各種イベント等での広報啓発活動等を推進



高校生を対象とした薬物乱用防止教室



ライオンズクラブ会員に対する  
薬物乱用防止講座

## 8 来日外国人犯罪の対策

### (1) 検挙状況

検挙件数は118件で、前年同期に比べて42件(55.3%)増加

検挙人員は44人で、前年同期に比べて1人(2.2%)減少

	R3	R4	R5	R6.10末
検挙件数(件)	160	97	82	118(+42)
刑法犯	125	66	54	95(+45)
特別法犯	35	31	28	23(-3)
検挙人員(人)	86	63	50	44(-1)
刑法犯	59	36	32	32(+4)
特別法犯	27	27	18	12(-5)

(2) 主な施策

- 外国人留学生や技能実習生に対する防犯講習・法令指導の実施
- ヤード(中古自動車、船舶の買取・輸出)に対する立入り調査の実施

9 サイバー犯罪対策

(1) サイバー犯罪関連の相談受案件数

相談件数は2,179件で、前年同期に比べて541件(33.0%)増加 (単位:件)

相談区分	R3	R4	R5	R6.10末
詐欺・悪質商法	996	956	1,127	1,229(+330)
違法・有害情報	98	58	55	40(-4)
名誉棄損・誹謗中傷	118	89	69	115(+63)
不正アクセス、コンピュータ・ウイルス	239	406	232	185(+11)
迷惑メール	122	242	292	188(-53)
クレジットカード番号盗取等	177	202	219	287(+123)
その他	151	189	78	135(+71)
合計	1,901	2,142	2,072	2,179(+541)

(2) 検挙状況

検挙件数は58件で、前年同期に比べて2件(3.3%)減少 (単位:件)

	R3	R4	R5	R6.10末
不正アクセス禁止法違反	2	3	1	4(+3)
コンピュータ・電磁的記録対象犯罪	4	12	3	0(-3)
ネットワーク利用犯罪	52	52	66	54(-2)
詐欺	13	24	30	16(-9)
児童買春・児童ポルノ法違反	3	3	2	6(+4)
県青少年愛護条例違反	4	3	3	0(-2)
わいせつ物頒布等	4	0	0	0(±0)
その他	28	22	31	32(+5)
合計	58	67	70	58(-2)

※ コンピュータ・電磁的記録対象犯罪とは、刑法に規定されているコンピュータ又は電磁的記録を対象とした犯罪をいう。

### (3) 主な施策

- 県内金融機関職員を対象とした体験型サイバーセキュリティセミナーを開催
- 大学生中心のサイバー防犯ボランティアと連携し、サイバー犯罪の危険性を周知



体験型サイバーセキュリティセミナーの開催



サイバー防犯ボランティアと連携した  
大学祭での広報啓発活動

## 10 交通事故から県民を守る対策

### (1) 交通事故の発生状況

#### ア 交通死亡事故の特徴等

- 死者のうち、高齢者が占める割合が高い 20人中16人(80.0%)
- 歩行中、自転車乗用中の死者が半数を占める 20人中13人(65.0%)
- 歩行中、自転車乗用中死者のうち、高齢者が多い 13人中10人(76.9%)

#### 【交通事故発生状況】

	R3	R4	R5	R6.10末
総事故件数(件)	19,811	20,366	21,582	17,493(+ 22)
人身事故件数(件)	912	939	986	761(- 21)
死者数(人)	26	27	20	20(+ 5)
傷者数(人)	1,029	1,063	1,133	867(- 36)
重傷者数(人)	176	191	200	168(+ 19)
物損事故件数(件)	18,899	19,427	20,596	16,732(+ 43)

※ 全国の交通事故死者数(R6.10末)は2,128人で、前年同期に比べて4人増加

【年齢層別・当事者別死者数 (R6.10末)】

(単位:人)

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下	0	0	0	0	0	0	0	0(-1)
30歳代	0	0	0	0	0	1	0	1(+1)
40歳代	0	0	0	0	1	0	0	1(-1)
50歳代	1	0	0	1	1	0	0	2(+1)
60~64歳	0	0	0	0	0	0	0	0(-1)
65歳以上	5	1	0	6	3	7	0	16(+6)
75歳未満	3	1	0	4	1	0	0	5(-1)
75歳以上	2	0	0	2	2	7	0	11(+7)
合計	6	1	0	7	5	8	0	20(+5)

イ 主な施策

- 交通事故発生実態等に即した交通指導取締り
- 関係機関・団体と連携した広報啓発活動
- 学校、公民館等における交通安全教育

(2) 高齢交通弱者対策

ア 高齢者(65歳以上)が犠牲となる交通死亡事故

高齢者の死者は16人で、前年同期に比べて6人増加

高齢者の死者数は全体の8割(20人中16人)

	R3	R4	R5	R6.10末
全死者数(人)	26	27	20	20(+5)
高齢死者数(人)	16	20	14	16(+6)
構成率(%)	61.5	74.1	70.0	80.0(+13.3)

イ 高齢交通弱者が犠牲となる交通死亡事故

高齢交通弱者(歩行中・自転車乗用中)の死者は10人で、前年同期に比べて8人増加

(単位:人)

	R3	R4	R5	R6.10末
高齢交通弱者の死者数	10	12	4	10(+8)
歩行中	8[7]	9[8]	3[3]	7[7](+5[+5])
夜間歩行中	7[6]	3[2]	1[1]	4[4](+3[+3])
自転車乗用中	2	3	1	3(+3)

※[ ]は反射材非着用

## ウ 主な施策

- 高齢者を対象とした交通安全教室の開催
- 各種警察活動を通じた反射材の直接貼付活動
- 薄暮時における交通街頭監視（セーフティフライデー）
- 自転車利用者に対する交通安全啓発活動



薄暮時における交通街頭監視  
（セーフティフライデー）



自転車利用者に対する交通安全啓発活動

## (3) 高齢運転者対策

### ア 高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故

全ての交通死亡事故のうち、高齢運転者が第1当事者となる交通死亡事故は7件（前年同期比－1件）で、全体の約3割（35%）を超える。

（単位：件）

	R3	R4	R5	R6.10末
交通死亡事故件数	25	26	20	20(+ 5)
高齢運転者が第1当	10	13	10	7(- 1)

### イ 年齢層別・当事者別死亡事故件数（第1当事者）（R6.10末）

（単位：件）

	自動車等				自転車	歩行者	その他	合計
	自動車	自動二輪車	原付	計				
29歳以下	2	0	0	2	0	0	0	2(- 1)
30歳代	3	0	0	3	0	1	0	4(+ 2)
40歳代	0	0	0	0	1	0	0	1(+ 1)
50歳代	5	0	0	5	0	0	0	5(+ 4)
60～64歳	1	0	0	1	0	0	0	1(±0)
65歳以上	6	0	0	6	1	0	0	7(- 1)
75歳未満	5	0	0	5	0	0	0	5(±0)
75歳以上	1	0	0	1	1	0	0	2(- 1)
合計	17	0	0	17	2	1	0	20(+ 5)

## ウ 主な施策

- 高齢者宅訪問による交通安全指導
- 公民館等における免許証自主返納出張窓口の開設等、自主返納しやすい環境の整備に向けた取組
- 運転技能自動評価システム（通称オブジェ）を活用した交通安全指導



自主返納出張窓口の開設



オブジェを活用した交通安全指導

## (4) 悪質・危険運転者対策

### ア 飲酒運転を伴う人身事故（第1当事者が自動車及び一般原動機付自転車）

飲酒運転を伴う人身事故は5件で、前年同期に比べて10件減少（-66.7%）、死亡事故の発生なし

	R3	R4	R5	R6.10末
人身事故件数（件）	13	9	20	5(-10)
死亡事故件数（件）	3	1	0	0(±0)
構成率（%）	23.1	11.1	0	0(±0)

### イ 飲酒運転の取締り

飲酒運転の検挙件数は134件で、前年同期に比べて6件減少（-4.3%）

	R3	R4	R5	R6.10末
検挙件数（件）	155	119	175	134(-6)

### ウ 速度違反の取締り

速度違反の検挙件数は4,644件で、前年同期に比べて4,773件減少（-50.7%）

	R3	R4	R5	R6.10末
検挙件数（件）	12,502	10,741	9,665	4,644(-4,773)

### エ 横断歩行者妨害違反の取締り

横断歩行者妨害違反の検挙件数は1,503件で、前年同期に比べて579件増加(+62.7%)

	R3	R4	R5	R6.10末
検挙件数（件）	1,988	858	1,216	1,503(+579)

オ 主な施策

- 飲酒運転取締り
- 生活道路における可搬式速度違反自動取締装置等を活用した速度取締り
- 取締重点横断歩道を中心とした横断歩行者妨害違反の取締り



夜間における飲酒検問



横断歩道における取締り